

毎 日 歌 壇

米川千嘉子 選

客で終はる一生だ 幼子が母に習ひて踊る
風の盆 坂戸市 納谷番代子
△評▽踊りの列に新しく加わる幼子もいれ
ば、いつの間にか抜けて二度と見戻らない
人もいる。誰もがこの世のひと時の客。
熱海では山に登ると見ゆる富士ぐんぐん伸び
てゆけ熱海富士 静岡市 柴田 和彦
△評▽秋場所で大活躍の若手力士。高い所
に行つて初めて見える最高峰、そこへ。
呼び笛を夜明け前から何回も吹く音を聞く老
老介護 長野市 宮崎 雄
世界中アラートばかり鳴り響く稚児の泣き声
に目を澄ませよ 札幌市 橋 晃弘
昼休み終わる間際の雑談に上司は父の顔で笑
えり 横浜市 友常 甘酢
昆虫を蟻が解体するごとく重機がビルをガリ
ガリ齧る 白井市 昆舎利道弘
インパラの逃げる草原ニンゲンは人差し指で
横切つてゆく 金沢市 竹内 一二
三度しか会わぬ主治医の説明はA-Iがしゃべ
る言葉の冷たさ 福岡市 木村 弘子
保育園ただ遊び場と思いが辛さこらえて行
く日あるらし 村上市 杉江 正子
こんなに大きく激しく痛きものは 電が
豹に見えたり 前橋市 西村 晃

加藤 治郎 選

ゆうぐれのばけものになり君は今柔い西日を
わたしにそそぐ 大津市 世田 夏雪
△評▽君には驚くべき能力がある。ゆうぐ
れを支配する。思いのままに西日を私にそ
そぐ。上句が破格で下句は穏やかだ。
夜の雲に地上の光がうつつてる 君のスピー
ド 僕のスピード 東京 森本 有
△評▽ダイナミックな作品である。思いが
けない光景で魅力的だ。対句もよい。
こんなにきれいだったんだ星 止まれ心臓
の、あゝ、あゝ、あゝ、今 宮古島市 塩見 伴
生きているから悩みもあって喜びもあるから
明日は美容院にゆく 直方市 大石 聡美
飛び降りる人を迷わず止められる人生であり
たかったのになぜ 山口市 三浦 明子
こんなにちはわたしの好きななまごころが売り切れ
ている絶望はある 横須賀市 森久保りりか
みそ汁をみつめる、銀河に見えてくる、する。
胃の中ばかりか銀河 岩手 中橋 イオ
爪を塗るのは善意のしるし ほんもの楽園
はいつも図書館の外 花巻市 永汐 れい
ひどいよね、ゆるせないって遠巻きに見てい
る人の目ららん光る 所沢市 神田 望
終電で帰る貴方の小さな背中 帰らないでと
言えば良かった 横浜市 荒田絵里子

水原 紫苑 選

琥珀のなかで悪夢がみたいわたしにはあなた
に教えた過去がない 花巻市 永汐 れい
△評▽琥珀の中の昆虫のように、長い時間
の中で悪夢を見る幸せ。語るべき過去のた
めに。
ヴェネチアの人の心が溢れる時アクア・アル
タとなり海に帰す 横浜市 朔月 七
△評▽水の都の水位が高まり街が浸水す
る。その源は人の心か、水の心か。
はりがみ禁止と書かれたボスターのやさし、
やさしい緑のフロント 福岡市 横井マリノ
わたしなしで生きられないものあってほしか
った鉢植えの紫陽花 北海道 穂木むかで
秋風よあなたは僕の感情の隙間に吹いてガタ
ガタ鳴らす 福岡 晴野 はる
月に血が存在しないことの不思議ジャムパン
齧る駅までの道 千葉市 芍 葉
青春は遠くなりゆく薄紙をかざした先にうっ
すら光る 堺市 初夏みどり
夕暮れを混えた海に遊ぶ人みな黄泉の人めい
ている秋 東京 音羽 凜
一瞬をこぼせばすれば冷めるゆめ雨垂れごと
の音階をきく 札幌市 鈴木 精良
川面に二輪の白いスイセンが添い添いでなほ
しかと寄り添い 中国岸 志帆莉

伊藤 一彦 選

繊細さを極めるならばお手本にしたいモンパ
ランの付まい 松本市 飛 和
△評▽憧れの繊細さのイメージとしてモン
パランを挙げていているのが独特でユニーク
だ。モンパランは山でもケーキでも面白い。
糸のところが風に任せて揺れる様 父の孤独が
今ならわかる 尼崎市 小石 絹子
△評▽ありし日の父親の孤独を上の句が想
像させる。楽しそうに見えた父だったか。
ウィズでなくアフターでもなくウィルスに片手
取られて細道をゆく 名古屋市 外山 雪
「今日は調子が出ないです」と言いたくも誰も
あたしを叱ってくれぬ 直方市 大石 聡美
思い出に蓋するように美しくラテアートした
カップを包む 札幌市 住吉和歌子
△天赦日▽の幟が雨が打たれぬて宝くじ売
場に傘の長列 岡山市 平尾三枝子
切り割のバス停ぬけて灯台の岬の先の海が現
わる 東京 影山 博
液晶の光を顔に浴びながら歩きスマホの男が
灯る 千葉市 佐藤 綾子
ゆく夏の糸瓜油の採取壺に汚れてラベルは
読めず 垂水市 岩元 秀人
老いゆきて呆けた自覚はないけれどタジャレ
少々出にくくなりぬ 東京 野上 卓

投稿規定 はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051 (住所不要) 毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、〇〇先生 (希望選者名) 係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(<https://mainichi.jp/kadan-haidan/>)でも受け付けています。他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。



こちらから投稿できます